

カケス



久しぶりに森林総研の秋を愛でに出かけました。2008年10月18日(日)薄曇りの良い天気でした。樹木園のミズナラ標本林でペアのカケスがドングリを捜していました。カケスは森林ボランティア作業現場でも、よく見かけますが、撮影は困難な鳥なのです。警戒心が強くこちらを意識させるとなかなかよいアングルになりません。出来栄えは満足なものではありませんが、識別可能な映像なのでよしとしましょう。

カケスはカラスの仲間なので利口です。雑食性が強く、好んでネズミを狩ります。であれば小鳥の巣から卵や雛を掠奪している筈です。物腰や目つきに穏やかでない雰囲気をかもしているのも納得できます。地声はお世辞にも良いとはいえません。ジャー、ジャー。ギャー、ギャーと森に響く悪声なので紛れることはありませんが、声色上手で他の鳥の鳴き声を真似たりしますので、人間もだまされます。小鳥達の巣を搜索するのに声色を活用せんがための進化だと思うのです。悪さばかりをするわけではなく、ドングリ類を貯蔵する仕事をするので、エゾリスと同じようにミズナラやコナラの繁殖に貢献しているのです。

図体はスズメの2倍ほどもあり、小鳥達には強敵であろうと思われませんがタカのように直接襲撃されることがないのか、さほど警戒されいもない

いような気がします。分布は日本全土ですが、森林性の鳥なので森に入るか近づくかしなければ出会うことはできません。

2005～2006年にかけて手入れした針葉樹人工林を覗いてきました。たった2～3年しか経過していないのですが、残置間伐材はすっかり落ち葉にまみれて、林床に溶け込んで見えました。天然林は黄葉、紅葉が賑やかで存分に楽しんできました。



庭のモミジの紅葉をご覧ください。樹形も色彩も見事で札幌でこれ以上のものは見たことが無いと思ったことでした。ここ森林総合研究所北海道支所が移設されたのが1974年です。庭に植えられた時点で30～40年生だろうと想定しますと、ほぼ70～80年は生きているモミジなので風格が出てきております。これから益々貫禄がついてきましてゆくゆくは札幌名所となることを予言しておきます。春のサクラも見事ですが、秋のモミジやナナカマドの紅葉も見事です。いずれも最善期は短く、時期をのがさないようにマークしておく価値はあります。